

＜先週の説教から＞

『花の日 合同礼拝—とりや花のように』

武田 真治 牧師

マタイによる福音書 6:25-31

今日は教会学校の暦から「花の日」として、子どもたちと一緒に礼拝を献げています。この礼拝がいつ、どこから始まったのかと申しますと、1856年アメリカ人のレオナード牧師が、子どもたちの成長を願い、子どもを中心にした礼拝形式を持ったことから始まっています。いわば「子どもの日礼拝」だったのです。そして1870年にマサチューセッツ州の教会で、その子どもの日礼拝に各家庭の庭に咲いていた花を持ち寄ることが始まり「花の日礼拝」になったそうです(=その時は「シャロンのバラの日」と呼ばれた)。日本には明治中頃に伝わり、今でも特に学校や施設で祝われています。

今日の聖書の箇所はまさにその「花の日」にふさわしい箇所だと言えます。即ち「なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾っていなかった。」です。このイエス様の言葉は、一つには“花”の持つ美しさを讃えておられ、その花のあり方を「注意して見なさい」と教えておられます。ここに込められている意味は、神様が創られたこの《自然の素晴らしさ》を良く考えるようにという教えであり、私たちも神様によって創られている存在であるという視点を忘れないようにという教えだと考えられます。

そして、その上で更に「野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか。」と続けて語られています。まさに、そのような素晴らしい“野の花”と比べても、私たちひとり一人はそれ以上の素晴らしさや美しさを“与えられている存在”であることをよく考えてほしいと。これは、私たちひとり一人に注がれて

いる《神様の愛と恵みの豊かさ》について言われておられる言葉ではないでしょうか。私たちひとり一人が神様によって“特別に愛されている者”であることに気づいてほしいと。そうするなら、もはや『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』ということが必要以上に「思い悩む」ことから解放されるからと教えておられるのです。

確かに、私たちの日々の生活は「思い悩む」ことばかり多いように思います。この「思い悩む」という言葉の原意は(心があれこれと分かれてしまう)ことです。『あれもこれも』と欲張り、なかなか心を満足させられない私たちに対して“与えられていることの恵み”へと視点を移すことで《心の定まり》が少しでも備えられると教えて下さっています。

\*\*\*\*\*

【今週の集会】

\*聖書研究・祈禱会 I. 6月19日(水) 20:00  
II. 6月20日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答

祈禱主題: 教団創立記念日を覚えて

担当者: (水) 坂田 (木) 羽倉

祈りに覚える人: 飯田さん 伊藤さん

\*ハンナの会 6月18日(火) 10:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男33 女93 計126

祈禱会 I. 男5 女3 計8 II. 男0 女7 計7

日曜学校 幼稚科13 小中科14 計27

\*\*\*\*\*

【次週主日礼拝】 6月23日(日)

聖書: イザヤ書 38:16~20

ルカによる福音書 2:13~20

説教: 「ルカ⑭ 一天には栄光、地には平和が」

武田 真治 牧師

讃美歌: 54(1)、32、157、453、432、

【次週当番表】 37(1)

司式: 坂田長老 奏楽: 勝村 礼拝: 茨木長老

献金: 小林 小林 受付: 金刺 坂田

会堂準備: 大野 勝村 黒澤 鶴巻

西尾

看板: 中村 週報: 飯島 お花: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・礼拝/伝道/牧会/社会/教育 各委員会

・聖歌隊練習

・関東改長協研修会 15:00~ (大宮教会)

# 週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2024年 6月 16日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>